

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 20 日現在

機関番号：34524

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20310152

研究課題名（和文）東アジアにおける死生学の歴史社会学的比較研究

研究課題名（英文）Comparative Research on Life and death in East Asia from the Perspective of Historical Sociology.

研究代表者

金子 哲（KANEKO SATOSHI）

兵庫大学・経済情報学部・准教授

研究者番号：80330497

研究成果の概要（和文）：平民が強い土地所有権を有し、定住志向を持つ日本社会は、東アジアの中で特異だ。平安時代の「良き死を支え合う仲間」からこの社会が始まったが、肉親の付き合いが弱くなった。グローバル経済のため、人間関係が弱くなった日本社会では、孤独死の不安が強まっている。インターネットを活用し、「看取り仲間」を増やすことで、死を積極的に受け入れられる社会となり、生の充実と無駄な医療費の削減が可能となる。

研究成果の概要（英文）：In Japan, ordinary people have strong titles to their land, and long to live the same village. In this way, Japanese society has been unique in East Asia. But in Japan, the relationship between family relatives has been very weak. Recently, anxiety about solitary death has increased, due to human relations being destroyed by neoliberalism. In the present age, by means of the internet, new communities can be formed to assist those close to death. This brings comfort to life's end, and eliminates unnecessary medical expenses.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
年度			
年度			
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2010年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：死生観、シャーマニズム、日本史、共同体、東洋史、教育学、社会学、日本・中国・タイ・カンボジア、宗教学、宗教、土俗、グローバリズム

## 1. 研究開始当初の背景

経済のグローバル化の下、血縁・地縁・社縁共同体の解体が進み、従来の宗教価値も失われた、生への不安とともに死に対する不安も増大している。死の忌避は、不要な医療費の増大や家族の過剰負担など深刻な社会問

題を生んでいる。

## 2. 研究の目的

東アジアにおける死生観の比較検討を通して、日本文化の位相・特質を見いだす。グローバル化の進展の中で求心力を失い、個として彷徨いつつある日本人が、より良き死を

積極的に受容し、このことで充実した生を得られるよう、新たなる日本の死生観の構築の道を切り拓く。

### 3. 研究の方法

(1) 金子は歴史的考察を中心に、古代～近世の日本社会の構造変化と死生観の変容について考察し、フィールドワークをおこないつつ東アジアとの比較を行った。意識の真相に潜むシャーマニズムの感覚も重視した。

(2) 牧田は東アジア・南アジアでのフィールドワークを行い、現在の死生観とその変化を調査した。また、湯瀬と連動して東アジアでのアンケートを進め、死生観の比較を行った。

(3) 岡本は日本近世末期から現在の、死穢を中心とする排除構造・排除感覚を考察し、東アジア的比較を行った。この際、「宗教的外部」を重要な軸とした。

(4) 湯瀬は死生観に関するアンケートを担当し、統計学的分析を行った。

(5) 海外研究者との連動は、韓国釜山市の国立釜慶大学校人文社会科学大学付属東北亜文化研究所をハブとし、東アジア・南アジア各国の研究者と連動し、成果を東北亜細亜文化学会などで発表し、さらに連動を深めた。

### 4. 研究成果

(1) 東アジアにおける日本文化の史的特質に関する研究成果。日本社会の定住志向は極めて特徴的である。定住性は、土地等に対する常民の強い所有権と一体である。これらを担保するのは血縁ではなく、地縁・職縁などの契約的共同体である。契約共同体社会は、平安後期～鎌倉時代を通しての大社会変動の中で成立した。この変動の嚆矢は平安中期の二十五三昧会などの往生共同体運動であった。血縁内に留められていた死穢に契約共同体が関わるようになり、血縁結合が後景に退き始めた。12世紀からの南宋経済圏への参入・宋銭の流入により、交換経済軸とする市場システム社会へと日本は変容した。宋・元終焉部で日本が新グローバルシステムに最もよく適合できたのは、往生共同体による契約社会化が始まっていたためである。交換経済社会・契約社会への移行は、鎌倉末～南北朝期の「惣」の成立により完成し、この社会システムは今日に連続している。往生共同体は「惣」結成と同時もしくはやや先行して設立し、「惣」の成立要因となる。金子が新発見した兵庫県稲美町森安南霊園明德五年石造阿弥陀如来像は、新義律派が往生共同体結成を主導し、用水整備とあいまって「惣」が結成された事実を示している。死生観などの価値観は、上記の鎌倉末～南北朝期に大断絶を生じた。死穢が血縁という結界から飛び出し、拡散し、死穢への忌避が抽象化し、強化された。タントリズム・シャーマニズムの世界が社会の表層からスクレイプされた。聖別されていた在地陰陽師＝宗教的芸能民は、一

部は宗教性を喪失した芸能民（能楽の徒）へと上昇するが、他は差別される身分へと墜とされた。真言立川流などのタントリズムの世界は弾圧され、ほぼ消滅した。生と死とが一体となり、生に死の要素が強く埋め込まれた渾然たる価値世界から、生の要素が純化される価値世界へと移行した。死の忌避は、契約共同体という装置が担保していた。現在の日本では、地域共同体は崩壊し、グローバリズムの下で職場共同体も喪失されるに至った。元より、血縁共同体の範囲は狭く、その紐帯も薄弱である。宗教的価値もとうに破壊された現代の日本人は、最も「個化」の不安にさらされており、その不安は臨終時に特に表面に現れる。徒な死の拒絶は、当人・家族・社会の負担を増大させている。

(2) 近現代日本社会と死生観。現代の日本社会は、死穢等の非合理的感覚を既に捨て去ったかのごとく装っているが、深層では中世後期以来の死穢観念などの非合理的感覚が強く残存している。死穢は今村仁司のいう排除される「第三項」として社会システムの中に強く組み込まれ、システムを支えている。セーラー服（男性衣装の女性化）などの矛盾を内包する要素には死穢などの排除項としての性格がすり込まれている事実を発見した。異教などの価値外部の存在にも、死穢などの排除項としての規定が与えられる事実も確認した。死生観に関するアンケートを通して、日本では若年層を含めて、東アジアの中でも強く死穢などの非合理的感覚を残存させていることが判明した。

(3) 今日の課題と未来への提言。孤独死に代表される「終末のあり方」は今日の日本において深刻な問題となっており、解決が急がれる。今日の日本社会では、すべての社会関係がバルキングを生じてしまい、終末に寄り添ってくれる血族・隣人・友人も、そして神仏との結合も喪失しており、孤独死を積極的に受け入れる個も成立していない。死を積極的に受け入れる価値構造の構築が求められている。死の積極的受容により不要な医療費や人的負担を軽減し、さらには「生」自体の充実をはかれる。近年、各地で発生している「看取り仲間」はこの鍵となろう。この活動は、日本社会を根底から変革した、平安期の二十五三昧会等の往生共同体運動に重なる。不確かながらしなやかでしたたかな結合力を発揮するネット社会は、「看取り仲間共同体」の形成を促進する可能性を有している。社会的にこれを支えていきたい。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

① 岡本 洋之、服装から日本の教育文化の深層を探る—セーラー服を結界と考える試

みと今後の課題一、教育の境界、査読無、第9号、2012年、pp.97-113

② 牧田 満知子、「安楽死」の概念をめぐる比較文化論—日本とオランダの医療文化における「死生観」を手がかりとして—、兵庫大学論集、査読無、第17号、2012、pp.109-119

③ 牧田 満知子、日本人の死生観と宗教、東北亜文化研究、査読有、第23号、2011、pp.567-577

④ 牧田 満知子、自立支援とソーシャルキャピタル、大阪大学グローバル COE (文科省「コンフリクトの人文学」)、査読有、第3号、2011、pp.95-123

⑤ 桐石 梢、牧田 満知子、在宅見取りにおける支援の現状と課題、兵庫大学論集、査読無、第16号、2011、pp.45-55

⑥ 牧田 満知子、瀬尾 弥生、人工呼吸器を装着した難病患者の終末期における在宅ケア、兵庫大学論集、査読無、第16号、2011、pp.191-202

⑦ 牧田 満知子、カンボジア・フィールド・ノート、兵庫大学論集、査読無、第15号、2010年、pp.119-147

⑧ 牧田 満知子、死生観のエスノグラフィ—、兵庫大学付属総合科学研究所報、査読無、第14号、2010、pp.1-15

⑨ 牧田 満知子、コンフリクトから地域共生へ—カンボジア国軍除隊兵士自立支援政策の分析を通して、南方文化、査読有、第37号、2010、pp.115-129

⑩ 岡本 洋之、変形セーラー服にキリシタン弾圧哀史をよむ—大正～昭和戦前の長崎県にみる外来文化への態度—、研究談叢 比較教育風俗、査読無、第11号、比較教育風俗研究会、2010、pp.122-139

⑪ 湯瀬 晶文、現代日本の若い学生における生と死の距離—～数字に見る死との距離感～、兵庫大学論集、査読無、第15号、2010、pp.175～180

⑫ 湯瀬 晶文、日本学生の「死生観」についての一考察—～尊厳死を通して見た現代学生の意識—、湯瀬 昌文、牧田 満知子、金子

哲、兵庫大学論集、査読無、第15号、2010、pp.181～186

⑬ 牧田 満知子、開発途上国における NPO 活動の分析—カンダル州 (カンボジア) の高齢者支援 NPO の分析—、兵庫大学論集、査読無、第14号、2009、pp.145-155

⑭ 牧田 満知子、桐石 梢、介護従事者の意識および労働実態調査研究、兵庫大学論集、査読無、第14号、2009、pp.157-166

⑮ 牧田 満知子、ポストコンフリクトの社会政策、WPD 論叢 (三菱財団研究助成報告論文)、2009、pp.40-65

⑯ 牧田 満知子、途上国における除隊兵士の自立支援、東北亜文化研究、査読有、第17号、2009、pp.733-751

⑰ 金子 哲、街道土盛りを堤体とする溜池の成立に関する一考察—溜池、街道、宿駅、そして宗教勢力—、兵庫大学附属総合科学研究所報、査読無、第12号、2008、pp.73-77

⑱ 牧田 満知子、揺らぎの中の福祉国家戦略—福祉国家形成過程におけるタイの医療保障制度の分析—、兵庫大学論集、査読無、第13号、2008年、pp.243-256

⑲ 牧田 満知子、貧困の削減から地域共生へ—経済社会開発の視座から考えるタイ地域医療の分析—、東北亜文化研究、査読有、第14号、2008、pp.57-68

[学会発表] (計40件)

(1) 岡本 洋之、セーラー服を結界のしるしと考える試み、関西教育学会第63回大会、近大姫路大学 (兵庫県姫路市)、2011/11/13

(2) 岡本 洋之、故郷・出雲の人々に向けられた微妙な眼差し—原爆死を美化した永井隆の原点を考える—、東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会特別シンポジウム『東アジアにおける死生学』、烏川君子村 (大韓民国安東市)、2011/10/16

(3) 湯瀬 晶文、葬儀の個人化と葬儀費用の変化、東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会特別シンポジウム『東アジアにおける死生学』、烏川君子村 (大韓民国安東市)、

2011/10/16

(4) 湯瀬 晶文, 牧田 満知子, 日本の大学生の死生観—一般との比較にみる「死」の捉え方の類似と相違—, 東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会特別シンポジウム『東アジアにおける死生学』, 烏川君子村 (大韓民国安東市), 2011/10/16

(5) 金子 哲, 「死生観の変化」が生んだ市場システム社会—激動する東北アジアの中での日本中世社会—東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会(招待講演、大会基調講演), 嶺南大学校 (大韓民国慶山市), 2011/10/15

(6) 牧田 満知子, 安楽死と尊厳死—日本とオランダの安楽死定義の比較から考える「死生観」—, 東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会, 嶺南大学校 (大韓民国慶山市), 2011/10/15

(7) 岡本 洋之, 女の服装と, 女の闘い—戦前の日本・神奈川県女子中等教育機関におけるセーラー服をめぐる—, 東北亜細亜文化学会第23次国際学術大会, 嶺南大学校 (大韓民国慶山市), 2011/10/15

(8) 金子 哲, 日本社会の市場システム社会化—12~14世紀の東北アジア世界の大変動の中で—, 国立釜慶大学校人文社会科学大学主催第3回国際学術シンポジウム「東アジアの成長と協同」招待講演 (国際学術シンポジウム), 国立釜慶大学校大淵キャンパス (大韓民国釜山広域市南区大淵), 2011/10/14

(9) 招待講演 (国際学術シンポジウム), 岡本 洋之, 「繁栄」と表裏一体をなす売春と伝染病—戦前の日本・三浦半島にみる—, 国立釜慶大学校人文社会科学大学主催第3回国際学術シンポジウム「東アジアの成長と協同」, 国立釜慶大学校大淵キャンパス (大韓民国釜山広域市南区大淵), 2011/10/14

(10) 岡本 洋之, なぜ水兵の服が女学生の服になったのか?—セーラー服を『結界』と

考える試み—, 教育史学会第55回大会, 京都大学 (京都市左京区), 2011/10/1

(11) 金子 哲, 平氏政権と地方貴種—清盛、厳島内侍、雅信、そして文観—, 東北亜細亜文化学会第22次国際学術大会, モンゴル人文大学 (モンゴル ウランバートル市), 2011/5/20

(12) 牧田 満知子, Employment and the Social Interaction of the Baby-boomer and the post Baby-boomer in Japan, 東北亜細亜文化学会第22次国際学術大会, モンゴル人文大学 (モンゴル ウランバートル市), 2011/5/20

(13) 岡本 洋之, セーラー服を「結界のしるし」と考える—ケカレ観念との関わりにおいて—, 東北亜細亜文化学会第22次国際学術大会, モンゴル人文大学 (モンゴル ウランバートル市), 2011/5/20

(14) 湯瀬 晶文, 牧田 満知子, How the Concept of Death is recognized by the Japanese Students, 東北亜細亜文化学会第22次国際学術大会, モンゴル人文大学 (モンゴル ウランバートル市), 2011/5/20

(15) 金子 哲, 辺境港湾都市文化に見る多様性と雑居性, 国立釜慶大学校人文社会科学大学主催国際学術シンポジウム「韓国、中国、日本における港湾都市と文化交流」招待講演 (国際学術シンポジウム), 国立釜慶大学校大淵キャンパス (大韓民国釜山広域市南区大淵), 2010/10/25

(16) 金子 哲, 御成敗式目42条再検討への東アジア的一視点—産土・墓所の成立する頃—, 東北亜細亜文化学会第21次国際学術大会, 国立釜慶大学校大淵キャンパス (大韓民国釜山広域市南区大淵), 2010/10/23

(17) 牧田 満知子, Status Quo and the Problems of the Elderly People in Japan, 東北亜細亜文化学会第21次国際学術大会,

国立釜慶大学校大淵キャンパス（大韓民国釜山広域市南区大淵）、2010/10/23

(18) 岡本 洋之、The History of Kirishitan Community at Urakami on the Northern Side of Nagasaki City (1638-1966)、東北亜細亜文化学会第 21 次国際学術大会、国立釜慶大学校大淵キャンパス（大韓民国釜山広域市南区大淵）、2010/10/23

(19) 湯瀬 晶文、牧田 満知子、数字にみる死との距離、東北亜細亜文化学会第 21 次国際学術大会、国立釜慶大学校大淵キャンパス（大韓民国釜山広域市南区大淵）、2010/10/23

(20) 湯瀬 晶文、続・日本人の「死生観」についての一考察—尊厳死を中心としたアンケートを通して—、東北亜細亜文化学会第 21 次国際学術大会、国立釜慶大学校大淵キャンパス（大韓民国釜山広域市南区大淵）、2010/10/23

(21) 金子 哲、島嶼探検を通しての異文化理解—箱館奉行所に参集した幕末知識人層の相互交流と『死の覚悟』を伴う異文化体験—、国立釜慶大学校東北亜文化研究所主催国際学術シンポジウム「辺境、島嶼からみる北東アジア」招待講演（国際学術シンポジウム）、国立釜慶大学校大淵キャンパス（大韓民国釜山広域市南区大淵）、2010/10/22

(22) 岡本 洋之、Perseverance: The History of Kirishitan Community at Urakami on the Northern Side of Nagasaki City, Kyushu Island (1638-1966)、国立釜慶大学校東北亜文化研究所主催国際学術シンポジウム「辺境、島嶼からみる北東アジア」招待講演（国際学術シンポジウム）、大韓民国釜慶大学校、2010/10/22

(23) 牧田 満知子、他、終末期における在宅ケア、第 18 回日本介護福祉学会、県立岡山大学（岡山県総社市）、2010/9/19

(24) 金子 哲、日本中世前後期移行期における彼岸との開放的回路の成立—琉球御嶽・韓国堂(タン)を媒介として—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、龍谷大学大宮キャンパス（京都市下京区）、2010/5/22

(25) 牧田 満知子、終末期と死生観、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、龍谷大学大宮キャンパス（京都市下京区）、2010/5/23

(26) 岡本 洋之、永井隆はなぜ原爆死が守の摂理だと強調したのか？—日本社会の根本問題から考える—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、龍谷大学大宮キャンパス（京都市下京区）、2010/5/23

(27) 湯瀬 晶文、日本人の「死生観」についての一考察—尊厳死を中心としたアンケートを通して—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、龍谷大学大宮キャンパス（京都市下京区）、2010/5/23

(28) 金子 哲、「惣」空間の成立と葬儀共同体—特に死穢をめぐる—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、高麗大学校（大韓民国ソウル特別市）、2009/10/17

(29) 岡本 洋之、長崎発「日本学」の可能性—「実利」をキーワードとして考える—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、高麗大学校（大韓民国ソウル特別市）、2009/10/17

(30) 湯瀬 晶文、日常思考に見られる科学性と非科学性—日本での死生学アンケートを通して—、東北亜細亜文化学会第 20 次国際学術大会、高麗大学校（大韓民国ソウル特別市）、2009/10/17

(31) 金子 哲、海洋の時代—日本中世の幕開け— 辺境そして死生の接点の視座から—、国立釜慶大学校東北亜文化研究所主催国際学術シンポジウム「東北アジアの海洋人文学の現在」招待講演（国際学術シンポジウム

基調報告)、国立釜慶大学校大淵キャンパス  
(大韓民国釜山広域市南区大淵)、  
2009/10/16

(32) 岡本 洋之、日本のかたちを写し出す  
国際貿易港・長崎—『実利』をキーワードと  
して考える—、国立釜慶大学校東北亜文化  
研究所主催国際学術シンポジウム「東北アジ  
アの海洋人文学の現在」招待講演(国際シン  
ポジウム)、大韓民国立釜慶大学校、  
2009/10/16

(33) 金子 哲、中世後期地方寺院領と都  
市・霊場・権力—播磨国賀古郡鶴林寺を例と  
して—、東北亜細亜文化学会第 18 次国際学  
術大会、大連水産学院(中華人民共和国遼寧  
省大連市)、2009/5/22

(34) 岡本 洋之、戦前の変形セーラー服に  
キリシタン弾圧哀史をよむ—試論・外来文化  
をめぐる長崎の地方性—、東北亜細亜文化学  
会第 18 次国際学術大会、大連水産学院(中  
華人民共和国遼寧省大連市)、2009/5/22

(35) 湯瀬 晶文、牧田 満知子、金子 哲、  
数字に見る死との距離—死と生に関するア  
ンケートを通して—、東北亜細亜文化学会第  
18 次国際学術大会、大連水産学院(中華人民  
共和国遼寧省大連市)、2009/5/22

(36) 金子 哲、中世播磨国加古郡・印南郡  
の基幹用水の成立と宿町空間構造の創出—  
五ヶ井岸南筋の成立と賀古川宿・守護所、そ  
して死穢空間—、東北亜細亜文化学会第 17  
次国際学術大会、国立釜慶大学校大淵キャン  
パス(大韓民国釜山広域市南区大淵)、  
2008/11/29

(37) 牧田 満知子、自立支援とソーシャル  
キャピタルの構築—カンボジア国軍除隊兵  
士自立支援プログラム(CVAP)の分析を通し  
て—、東北亜細亜文化学会第 17 次国際学術  
大会、国立釜慶大学校大淵キャンパス(大韓  
民国釜山広域市南区大淵)、2008/11/29

(38) 岡本 洋之、戦前日本の女子中等学校  
における制服洋装化に関する問題提起—長  
崎県でのセーラー服普及事情から—、東北亜  
細亜文化学会第 17 次国際学術大会、国立釜  
慶大学校大淵キャンパス(大韓民国釜山広域  
市南区大淵)、2008/11/29

(39) 湯瀬 晶文、牧田 満知子、金子 哲、  
尊厳死を通して見た現代学生の死生観—尊  
厳死のアンケートを通して—、東北亜細亜文  
化学会第 17 次国際学術大会、国立釜慶大学  
校大淵キャンパス(大韓民国釜山広域市南区  
大淵)、2008/11/29

(40) 金子 哲、中世播磨国の陰陽師に関す  
る—考察、東北亜細亜文化学会第 16 次国際学  
術大会、国立極東科学技術大学(ロシア共和  
国ウラジオストック市)、2008/4/25

[図書](計 2 件)

① 金子 哲、他、法蔵館、鶴林寺叢書③ 鶴  
林寺とその全盛時代、2009 年、pp. 24-35

② 牧田 満知子、朝倉書店、看護・介護・  
福祉の百科事典、2008 年、共同執筆部分あり  
抽出不可能

[その他]

ホームページ等

① 新史料発見、金子 哲、森安南霊園地藏  
堂明德五(1394)年石造阿弥陀如来像の発見、  
兵庫県加古郡稲美町森安、2011 年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

金子 哲 (KANEKO SATOSHI)  
兵庫大学・経済情報学部・准教授  
研究者番号：80330497

### (2) 研究分担者

牧田 満知子 (MAKITA MACHIKO)  
兵庫大学・生涯福祉学部・教授  
研究者番号：80331784  
岡本 洋之 (OKAMOTO HIROYUKI)  
兵庫大学・経済情報学部・准教授  
研究者番号：50351846  
湯瀬 昌文 (YUSE AKIFUMI)  
兵庫大学・健康科学部・講師  
研究者番号：70301661

### (3) 連携研究者

なし